

藤沢

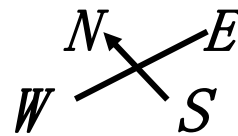
## エコネット

藤沢環境運動市民連絡会議

(略称) 藤沢エコネット

2024年3月1日

第358号



主な記事

- ・ゼロカーボン講演会
- ・子どもたちが輝くまちづくりを
- ・今年も桜の開花
- ・野鳥とのつきあい方

<http://econet2015.sakura.ne.jp>事務局 e-mail: [aoyagipc@jcom.home.ne.jp](mailto:aoyagipc@jcom.home.ne.jp) 青柳

☎ / FAX 0466-87-4922

## なぜ原発はいけないのか、止めなければならないのかー14回目の3.11を迎えー

14回目の3.11を迎えた。あの日、我が大学の14階建校舎は大地震で竹のように揺れ動き、我々が避難したグラウンドに向かって倒壊してくるとさえ思えた。人生最大の恐怖だったが、震源地の情報が入ったときそれ以上に背筋が凍った。女川原発を津波が直撃すると直感したからだ。現地で長年反対運動を担う、阿部宗悦さんの顔が浮かんだ。しかし最大の問題は、高い位置に立地する女川ではなく、ほぼ海面と同じ高さの福島第一にあった。

あれから13年、あの惨状と何ら復旧していない福島第一を前にしてなお、原発推進派はますます意気軒昂である。「頭がおかしい」以外に表現しようがない。さらに一応「労働組合」の看板を背負った連中まで原発再稼働を叫ぶとは、この国は末期症状である。滅びが近づいているとさえ思える。もう一回いう。彼らは完全に「狂気」の世界にいる。

私は、3.11前から一貫して大学の講義で訴えている。なぜ原発はいけないのか、止めなければならないのか。特に3.11以降は、以下の6項目だけで全ての原発推進論は破綻し、推進派は“ぐうの音”も出ないはずだと説く。①3.11：いつまで続く放射能被害／②原発事故の破滅性・危険性：数時間の停電で炉心溶融・水素爆発ーこんな危険な施設は産業装置として成立しないー／③危険な放射性物質管理の反永久性：30年の稼働で数万年の管理？誰がどうやって？どこに？そのコストは？／④被曝労働の非人間性：一体誰が原発を動かしているのか？事故がなくても労働者の被曝は不可避／⑤原発の出自もやめない本音も「核武装」にある：「平和利用」など虚妄／⑥原発がなくても電気はまかなえる。

しかし13年前と違い、今の学生にどこまで響いているのか不安なことも多い。でも私たちは、未来のある若い彼らを、数万年続く「狂気」の世界に置きつづけるわけにはいかない。道は険しくとも、彼らとともに、原発のない社会と未来を目指さなくてはならない。当面、私たちは諦めずに地道な活動を対置するしかないが、あまりに手強すぎる「狂気」を前に無力感も漂う。それでも諦めてはならない。私たちが諦めたときこそが、「狂気」への敗北宣言なのだから。諦めずに「正気」の道を歩き続け、その道を広げていこう。

(日大生物資源学部教授 高橋巖)



## 竹内昌義先生のゼロカーボン講演会

ゼロカーボン推進週間に合わせ、藤沢市主催の「ゼロカーボン講演会」が12月16日に実施されました。

建物の断熱化について精力的に活動をされている建築家の竹内昌義さんが、日本のエネルギー全体の約34%が建物で使用されていること、脱炭素社会とはどんな社会なのかを未来を見据えてお話されました。



講演する竹内昌義さん

ご存知の通り、日本はG7の中でも住宅の断熱性能を義務化できていなかったのですが、ようやく2025年から「断熱等級4」の適合が義務付けられます。

藤沢市は移住者も多く、住宅の数も増えています。

家庭部門の脱炭素化を進めるためにも断熱化はCO<sub>2</sub>削減効果が高いと考えられます。既存住宅で「断熱等級4」以上である建物は全国のデータで約1割しかないそうです。

断熱に関しては鳥取県や長野県が現在取組みを推進しています。特に鳥取県は独自の省エネ住宅基準である「とっとり健康省エネ住宅性能基準」を設定して県民が健康に暮らせるとして打ち出しています。また、補助金制度も充実しており、「NEST」や既存住宅の断熱改修にも補助金がでる「Re-NEST」という制度も設定。

都市部では横浜市が「断熱等級6、7」の推進を始めています。

竹内さんのお話は各自治体がどのように進めていくのかも大事とのことでした。

鳥取県と藤沢市では、予算の規模が違うなどもあるかもしれませんが、市民が断熱化に一歩踏み出せる藤沢市の取組みができればと思いました。(Y)

## 野鳥との付き合い方

散歩の途中で野鳥に出会えるとうれしいものです。双眼鏡を下げているとバードウォッチャーとして、鳥の情報交換します。はじめて方でも古くからの友人のよう、それでさらに野鳥が好きになるのです。そんな方々から教えてもらったことを少し紹介します。

### 鳥はそーっと見る

どこかで珍しい鳥が見えたとなればすぐに「ニュース」になってしまいます。柏尾川に白いカワセミにであつた。すぐに話題になりました。ところが公園に猛禽類のツミの巣を作ってヒナが生まれたとなれば、大勢の人が見に来ます。そして中には木に登って巣の中を見ようとし、結局は、親鳥は子育てを放棄しヒナは死んでしまいました。そんなことから、敢えて教えない方が鳥のためとなり、マナーとなっています。

### 野鳥の好きな食べ物

特に冬場は食物のある場所に行けば、野鳥に出会える確率が上がります。種類によって何を食べるのかおおよそ決まっているようです。警戒心旺盛な野鳥も食事に夢中になっている



①草の実をたべるベニマシコ

と逃げません。じっくり観察できる絶好の機会となります。まずはベニマシコという冬鳥です。好きな食べ物はセイタカアワダチソウの実だ

そうです。私はこの冬に早戸川林道で何度か見ましたが、決まってある草の実のある所でした。写真①の右に細長くモコモコしている草の実がお気に入りのようです。残念ながら草の種類はわかりませんでした。

続いて写真②のオオジュリン。冬のアシ原で見かけます。この時期、アシの茎の中にはカイガラムシが潜んでいます。それをほじくり出して食べるのが、オオジュリンやシジュウカラです。冬の大切なタンパク源なのでしょう。アシの茎をむしって、中のカイガラムシを食べるのでその音が聞こえます。耳を澄ましてみてください。



②オオジュリン

まだまだ楽しい話は続きます。でもそれは別の機会に。

(菅谷芳雄)

## 藤沢の今年の桜の開花は？

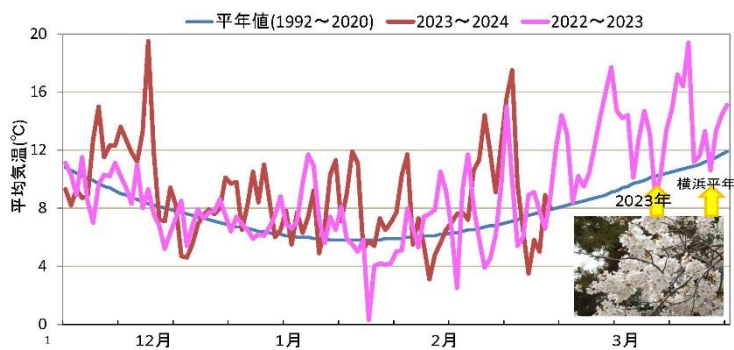
今年も桜の開花が待たれる時節となりました。今年の冬は、記録的な暖冬だったため、開花も早いことが予想されています。

NPO 法人・CWS は、2021 年から藤沢市内を中心として桜の開花の観察を始めました。2023 年には、エコネット会員の協力があって、大幅に観測地点が増え、藤沢市内をほぼカバーして、開花傾向を把握することができました。

2021 年～2023 年は、暖冬傾向が続き、横浜地方気象台の観測によると、いずれの年も平年開花日の 3 月 25 日よりも早まりました。藤沢市の開花は、毎年、横浜より 2～5 日遅いことが分かりました。そのため、藤沢市でも、2021 年～2023 年は、平年よりも早い開花であったといえます。特に 2023 年は著しい暖冬で、藤沢市内の開花は、3 月 17～19 日となりました。図の 2023 年の気温の傾向をみると、1 月下旬と 2 月中・下旬に一時的に低温となった期間があったものの、全体では平年よりも高温の期間が続き、特に 3 月に入ると著しい高温となりました。

その結果、3 月中旬の早い開花となったものと考えられます。今年は昨年を上回る高温傾向が続いていることから、3 月の気温によって、昨年と同じか、それよりも早まることも予想されます。

【藤沢市の気温と桜の開花日】



【気温の平年値、2022 年 12 月～2023 年 3 月の気温、2023 年 12 月～2024 年 2 月の気温、2023 年の開花日、横浜の平年の開花日】

生物季節観測は、地道な作業ですが、長期間続けることで気候の変化の実態と、生物界に与える影響を明らかにすることができ、それが今求められていることと考えます。

(NPO 法人 CWS 丸田)

## 子育てがしやすく、

## 子どもたちが輝くまちづくりを

出生数 77 万人(2022 年)→75.8 万人(2023 年)

このままでは 2070 年の総人口予測は 8,700 万人に(現在の 2/3)「結婚し、子育てしやすいまちに」  
「子どもたちが主役になるまちに」

藤沢市の人口は、2035 年に 45.4 万人で人口のピークとなり、その後減少に転じる見込み(前号巻頭言)。少子化対策の視点で計画の見直しは必至。

今後、年少人口(0～14 歳)は減少傾向で推移し、生産年齢人口(15～64 歳)は 2025 年をピークにその後減少に転じ、高齢者人口は増加傾向が継続する見込み(2023 年 4 月記者発表)。高齢化は既に、2000 年に年少人口と老年人口が逆転し高齢化は始まっていた(藤沢市の人口：令和 2 年国勢調査結果報告書)。

2050 年までの各地区の人口の推移は左上の全市人口推移とはピラミッドの形が地区によって異なります。各グラフの横棒は 5 年ごとに 1 段ずつ上がっていきます。

2040 年に市の高齢化率 33.0%大きく上回る地区は、片瀬地区(43.6%)善行地区(41.6%)、湘南大庭地区(42.7%)、御所見地区(39.6%)です。

図7 人口ピラミッドの推移

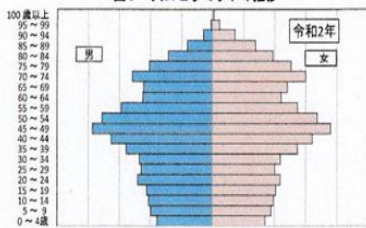


図5 年齢3階層別構成比の推移

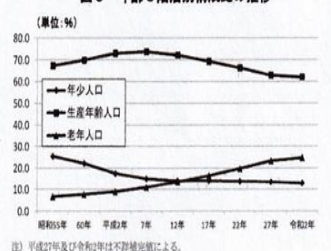
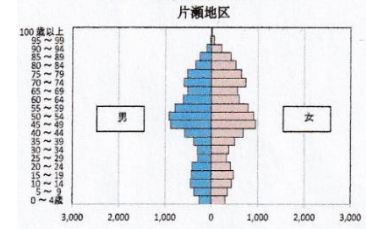
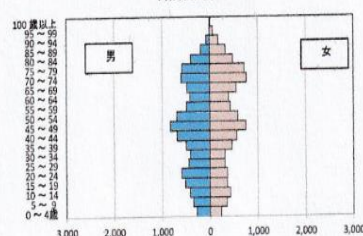


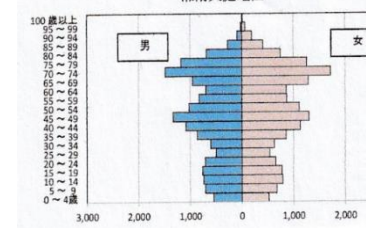
図31 13地区別人口ピラミッド



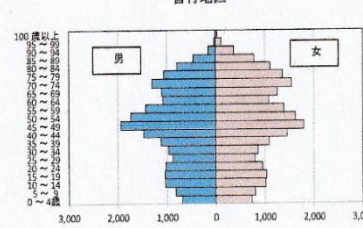
御所見地区



湘南大庭地区



善行地区



(次ページへ)

共通していることは「つぼ型」で底辺(0~4 歳)のゾーンは増えず少子化に拍車がかかり社会が衰退していきます。このゾーンをどうやって拡大するかが課題。

このままでは、藤沢のミライはない！少子化対策は待ったなし！！

こどもを育てやすい街づくり。→子育ては自己責任ではなく「子どもは社会の宝」として社会で支え合うまちづくり(地場産業活性化でまちおこし、個人所得増など)。

めざす方向は、新鮮な水産物・農産物で食糧とエネルギーの地産地消で災害にも強い「分散型エネルギー」の街づくりを。

片瀬地区は漁業・水産物の振興と地元の農産物を組み合わせたグルメレストラン等の観光スポットを全市に広げる。

御所見地区・遠藤地区などの市街化調整地域では農業の振興：農業の機械化で自動運転で高齢化しても農業が続けられるようにソーラーシェアリングの普及で小規模電力網供給。

湘南大庭地区：地域小規模電力網のまちづくり→自動運転交通

2030 年の SDGs 目標や 2050 年の脱炭素社会(水素エネルギーを含むシステム転換)で持続可能な社会づくりには少子化対策は不可欠。

暮らしを支える食糧やエネルギーの自給によるまちづくりを土台に子育てがしやすく、子どもたちが輝く藤沢をめざし、みなさん一緒に考えましよう！

総務省 将来推計人口、住民基本台帳に基づく人口動態 (gdfreak.com)



(気候危機アクション藤沢 宮地俊作)

### 放射能測定値(市民計測)

(HORIBA Radi) 単位 ( $\mu\text{Sv/h}$ ) 地上 50 cm

2/28 晴 辻堂神台公園 0.043

2/28 晴 引地川親水公園 0.034

## ECONET INFORMATION

### ▲14年目の福島 現地の声を聞く

浪江町今野秀則さん 新地町小野春夫さん他

3月9日(土)13:30- 参加費 500 円

場所：カトリック藤沢教会(藤沢駅南口 5 分)

主催：NPO こども達に未来を in 湘南

協力：カトリック藤沢教会、チームみつばち、

福島の子どもたちとともに湘南の会ほか

申込み：090-5567-7435

### ▲映画「ハマのドン」上映

3月7日(木)①10:30- ②13:30-

場所：湘南台文化センターホール

チケットは当日ホール入り口で販売

3月14日(木)ハーモニーホール座間

1 回目 10:30- 2 回目 13:30-

問合せ 県央シネサロネット 090-3208-8740



### ▲東日本大震災かながわ追悼のタベ

3月10日(日) 14:45~18:20

横浜市役所1Fアトリウム(屋内) 参加無料

カテリーナさんによるバンドゥーラ演奏

被災地浪江町出身者ピアノ演奏 トークなど

主催：実行委員会・後援:神奈川県他多数

### ▲食と環境を考える暮らしフェスタ

野菜直売 ワークショップ 展示クイズラリー

など ちょっと学んで楽しもう

3月19日(火)10:00-16:00

湘南モルフィル2階 コミュニティホール

(藤沢駅北口バスで高山車庫下車すぐ)

主催 みんなの消費生活展実行員会・藤沢市

問合せ：0466-50-3573

### ▲藤沢エコネットから

◆会員募集 年会費・購読料→2000円

◆事務局会議 3月2日(土)10:00~六会公民館

《編集後記》三寒四温というが2月は並外れた温かさや台風のような強風にみまわれた。これが気候危機の現れと痛感した。フキノトウやセリなど昔を思わせる野草が恋しい季節。道草をしている場合ではない！能登半島地震では今も水さえ充分ではないという。仮設住宅を早く建て、安心な生活に戻れるよう祈るばかり。3.11 と 1.1 の悲劇から早く立ち直す手立てに政府は力を注いでほしい。

(H)